

平成25年度「全国学力・学習状況調査」における 茨田中学校の結果の分析と今後の取り組みについて

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成25年4月24日(水)に、3年生を対象として、「教科（国語・数学）に関する調査」と「児童生徒質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善点に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年の原則として全児童生徒
- ・茨田中学校では、3年生 274名

3 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ◎主として「知識」に関する問題【国語A・数学B】
 - ・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
 - ・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など。
- ◎主として「活用」に関する問題【国語B・数学B】
 - ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
 - ・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

(2) 児童生徒質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査

平成25年度「全国学力・学習状況調査」検証シート

大阪市立茨田中学校

生徒数

274(特支9を含む)

平均正答率 (%)

	国語A	国語B	数学A	数学B
学校	73.4	63.1	59.9	37.5
大阪市	72.2	61.0	59.6	37.1
全国	76.4	67.4	63.7	41.5

平均無解答率 (%)

	国語A	国語B	数学A	数学B
学校	2.4	2.9	5.2	18.2
大阪市	3.6	4.7	7.2	20.9
全国	2.4	2.8	5.3	16.7

結果の概要

今年度も、国・数A・B問題とも大阪市の平均正答率を上回っている。(昨年度は、国・理が全国平均を上回った。) 全国の平均正答率では4ポイントほど及ばなかった。平均無解答率においては、全国平均並みであった。学校全体として不登校やいじめ問題を根絶していく組織体制が確立し、落ち着いた学習環境が育成され、受検者数も268名で、受検率約98%は高い。

生徒質問紙では、規範意識や基本的生活習慣においては、生徒が善悪の判断がしっかりと把握ができるいると判断できる。学習活動では、言語力の育成や家庭学習の自学自習で少し低い結果が見られるので指導法の改善に向けた取り組みを進めていく。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

今年度の取組では、学校力の向上に向けて年間計画に授業研究週間を位置付けて初任・2年・5年次教員の研究授業を充実させて授業力の指導技術の改善につなげることができた。そして相互授業参観を通して、中堅教員と若手教員との意見交流会を活性化させることで、お互いの課題を見つけて授業内容の改善・工夫につなげることができた。また、2年次教員の年2回、教育指導員の指導・助言等も授業力の向上に非常に有益であった。

学力調査の結果を踏まえて、各教科の特性をしっかりと理解させて、日常生活に密接なつながりがあるという認識を気づかせる指導をしていく必要がある。授業内容のさらなる工夫が必要となり、特に言語活動の充実を図るために、教科内での話し合いやICTの活用などを取り入れながらステップアップを目指す授業づくりを推進していく。

自主学習習慣の定着に向けて、学校元気アップ事業との連携で、長期休業中やテスト前に各学年での自主学習会を実施している。その取り組みにより生徒数の増加が見られ好評であり、今後もさらに充実させて学力の向上に繋げるとともに保護者の協力を得ながら、家庭学習で自学自習ができる教材づくりや点検シート等を活用しながら基本から応用・発展に進展していく教育活動を実践していく必要がある。

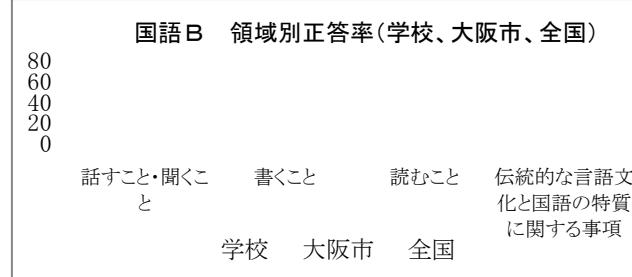
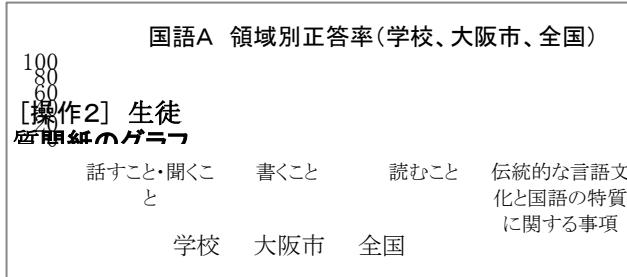
【国語】

結果の概要

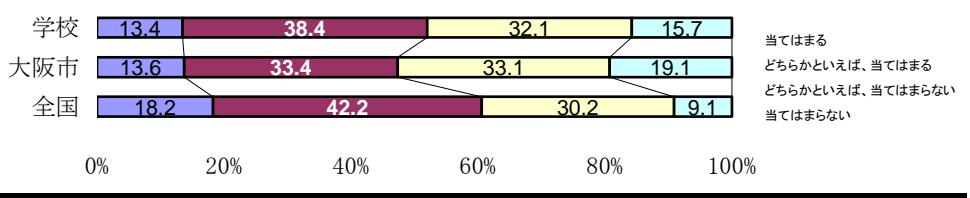
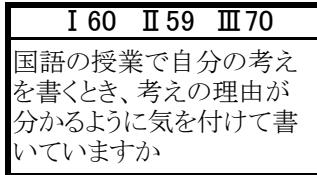
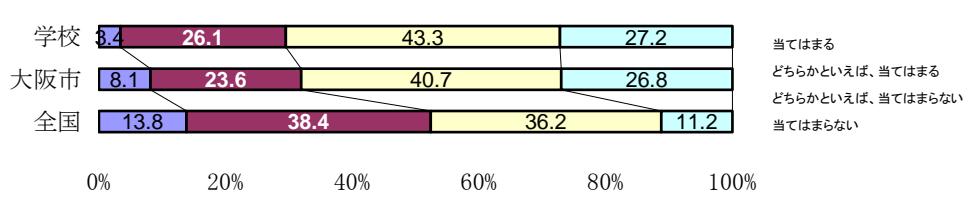
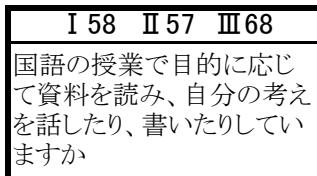
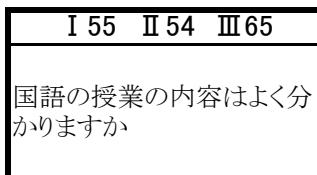
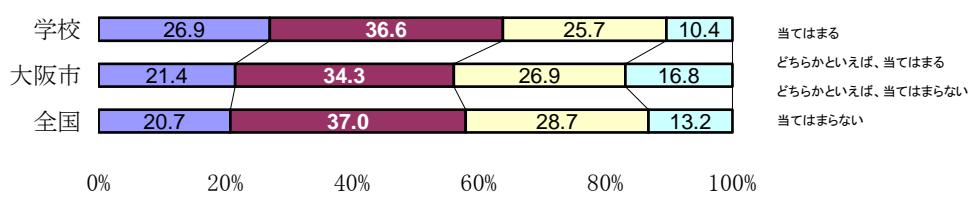
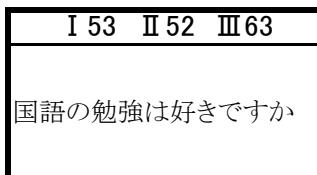
国語A・B問題とも大阪市の平均正答率を上回ることができたが、全国の平均正答率には達することができなかった。特に「書くこと」の領域においては課題がある。また、生徒質問紙の「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか」の設問においても課題がある。課題解決に向けて、今後辞書の活用を通して、語句の意味を確かめる習慣を身につけさせ、前後の文章のつながりを把握させ、諸問題について発表する機会を設ける必要がある。

A 問題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	4	75.6	73.1	77.6
	書くこと	4	56.8	57.3	64.5
	読むこと	6	78.4	76.8	80.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	18	74.9	73.9	77.5

B 問題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	0	—	—	
	書くこと	3	57.3	54.0	62.7
	読むこと	8	63.7	61.9	67.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	1	58.6	54.2	64.6



国語に関する「生徒質問紙」



成果と課題

領域の「話すこと・聞くこと」、「読むこと」については、全国の正答正答率に近づきつつある。学力の向上を図るために、授業内容の工夫・改善の推進と教科間や他教科間との教員の意見交流会を深めていく必要がある。国語の教科に対しては、授業内容も含めて興味・関心を持っている生徒が多く見られるが、今後、思考力・判断力・表現力の育成に向けて、言語活動を取り入れた授業の推進や習得した知識を活用できる学習形態の在り方を見直していく。

今後の取組

各領域の検証をしっかりと把握し、低い結果がある分野においては授業改善の必要性がある。新聞・資料等を積極的に活用し、各問題点について考えさせたり意見を述べさせる指導を推し進めるとともに書く力を身につけさせていく。また、振り返り学習の徹底化を図り、理解度チェックを日々実施する指導体制の構築。

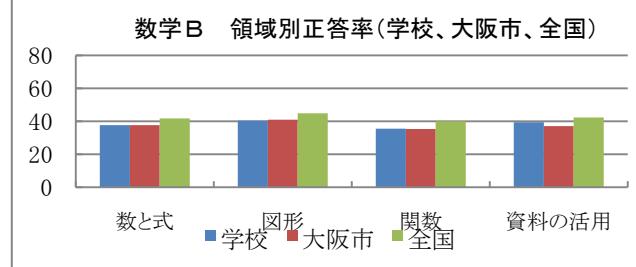
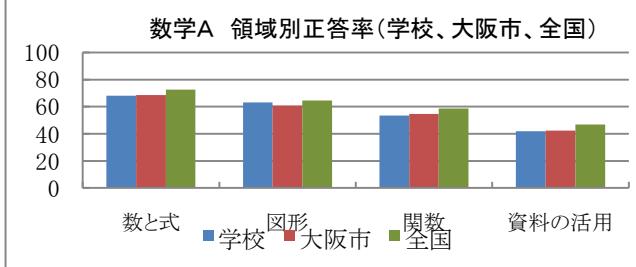
【数学】

結果の概要

大阪市の平均正答率は上回ることができたが、全国の平均正答率には達することができなかつた。領域の「図形」の設問においては、良い結果が出ているが、「関数」の分野においては特に正答率が低く、今後の課題がある。課題解決の向けて、基礎・基本の定着を図る授業内容の見直しと普段の生活の中での数学的思考を育ませる方策を考えていく必要がある。

A 問題		平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	数と式	11	68.2	68.6
	図形	12	63.1	60.8
	関数	9	53.5	54.7
	資料の活用	4	41.8	42.3

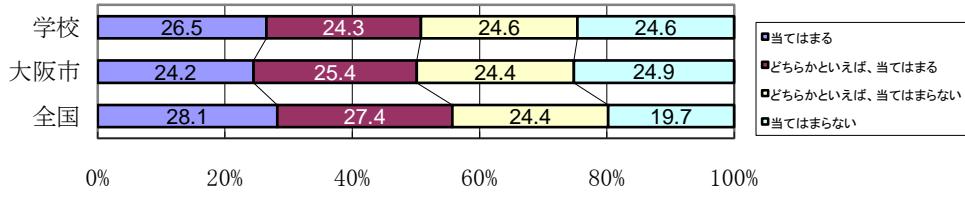
B 問題		平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	数と式	5	37.6	37.6
	図形	2	40.3	41.0
	関数	6	35.5	35.4
	資料の活用	3	39.3	37.1



数学に関する「生徒質問紙」

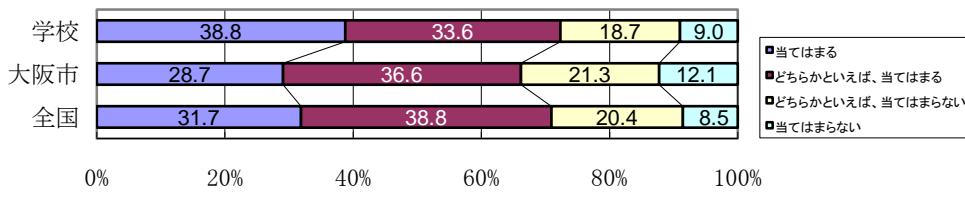
I 73 II 62 III 73

数学の勉強は好きですか



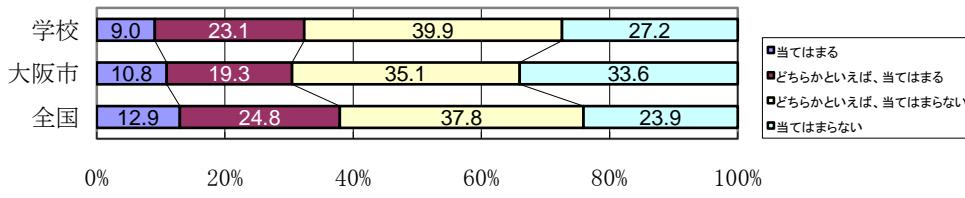
I 75 II 64 III 75

数学の授業の内容はよく分かりますか



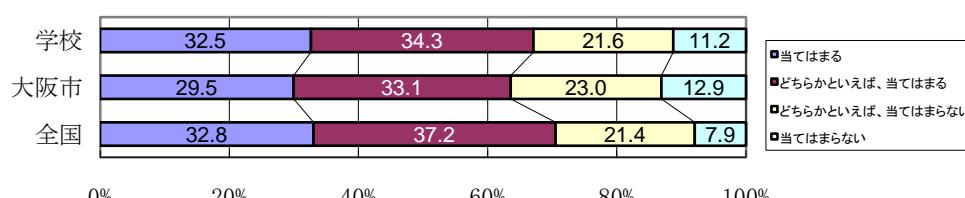
I 78 II 67 III 78

数学の授業で学習したこと、普段の生活の中で活用できないか考えますか



I 81 II 70 III 81

数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか



成果と課題

生徒質問紙の項目においては、数学における授業への姿勢は前向きで、全国より上回っている所は維持している、授業を通して、公式やきまりの習得では、その根拠を理解しようと努めているが、問題の解き方や普段の生活の中で数学的に考えたり、説明できる学力を身につけさせる授業内容の工夫・改善を推進していく。

今後の取組

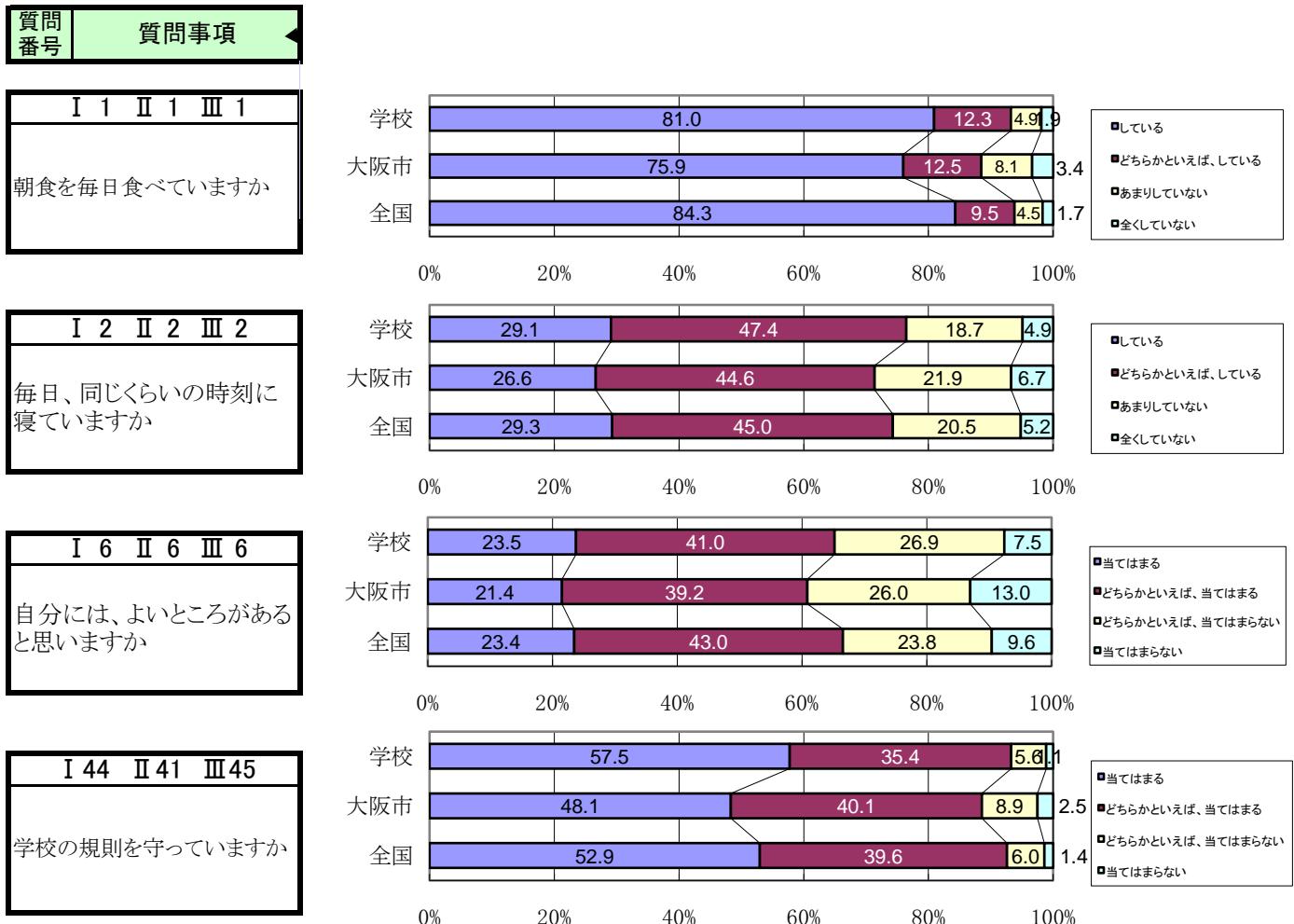
基本力の充実を図るために、反復学習等の繰り返し学習を重点に置き、発展・応用力につなげていく数学的な見方や考え方の習得では、例えば、図形の学習では個々の創造力を働かせるために視覚教材を作成し確かめの活動を行っていく必要がある。

基本的生活習慣・自尊感情・規範意識

結果の概要

各項目の質問事項の結果から判断すると全国基準並みである。しかし、基本的生活習慣における食生活の指導(食育)を保護者の協力を得ながら充実させていく必要がある。

「学校の規則を守っていますか」という規範意識の項目では、全国平均より5ポイント上回っている。基本的な生活習慣や自尊感情においては、昨年度より3ポイントほど上がっており、今後も学校生活の充実を図り、知・徳・体の調和のとれた人間形成の育成に努めていく。



成果と課題

生徒一人ひとりが日々の生活の中で、しっかりと善悪の判断ができるいると考える。部活動活性化の一環として、部活動集会、キャプテン会議や地域の清掃活動を数回実施しており、部活動の在り方・学校のルール等の基本的な教育活動を推進している。今後も維持と発展につなげていく取組を行っていく。

今後の取組

健康教育部や家庭科教員の協力のもとで、食育の重要性を推進していくことが今後の課題である。また、生徒会専門委員会を活用しながら食生活が個々の体力・知力に影響を及ぼすものであることを指導していく必要がある。道德教育を通して、自尊感情・豊かな心を育むこころの教育を進める組織の充実を図っていく。

家庭学習・読書・学びの質の改善：言語力の育成

結果の概要

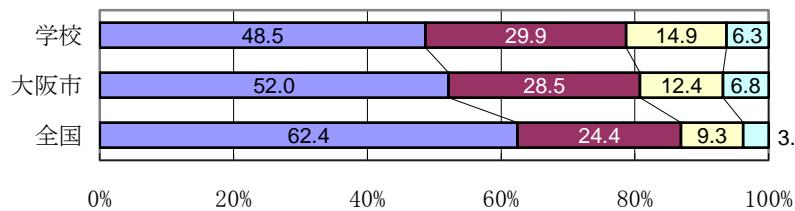
家庭学習での宿題や復習の時間を費やす生徒は少ないようである。特に振り返り学習を推し進めていく学習習慣を身につけさせる必要がある。

読書活動においても、全国レベルに比べて5ポイントほど低く、朝の読書や学校図書館開放時間の延長等を取り入れる体制づくりの推進。

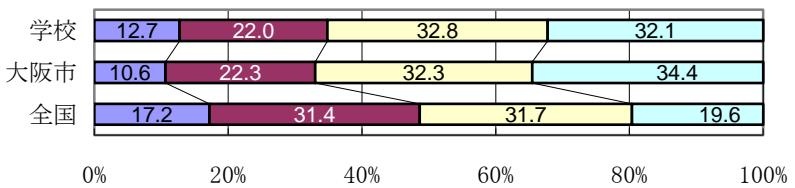
家庭での自学自習や言語力の育成の充実を図ることが課題である。普段の授業の中で、生徒間で話し合う活動つまり協働学習を各教科に浸透させていく必要がある。

質問番号	質問事項
------	------

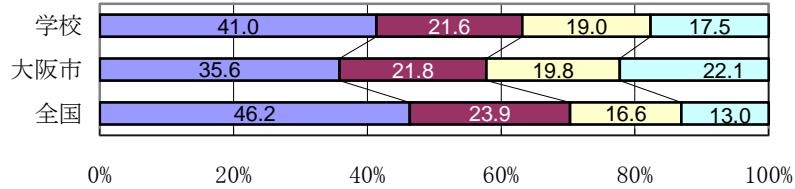
I 30 II 25 III 35
家で、学校の宿題をしていますか



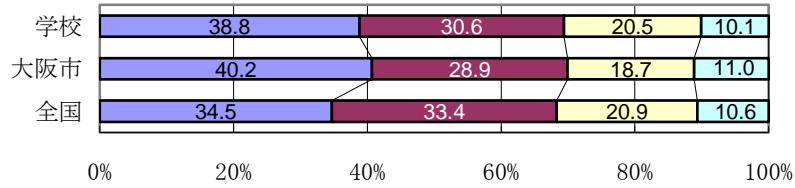
I 32 II 27 III 37
家で、学校の授業の復習をしていますか



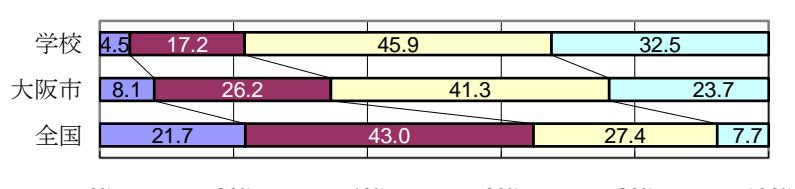
I 56 II 55 III 66
読書は好きですか



I 52 II 51 III 61
学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章を書いたりすることには難しいと思いますか



I 50 II 48 III 57
普段の授業では、生徒間で話し合う活動をよく行っていると思いますか



成果と課題

学校元気アップ事業との協力のもと、放課後の自主学習会は定着しているが、今後さらに発展させ家庭で自主的に復習・予習ができる支援を行っていく。また、教科間の話し合いを充実させるとともに結果の検証を綿密に実施し、学習活動のチェック体制を図る。

今後の取組

各教科の授業内容の改善で、グループ学習や発表するといった言語活動を生かした学習内容を取りいれることが重要である。また、読み物や新聞等の活用も視野に入れて、文章表現・文章能力を高める方策を考えていく。教員へは言語活動の充実を図る研修への参加を促進させ、ICT活用も含めた授業力の向上に努めていく。